

エネルギー白書から

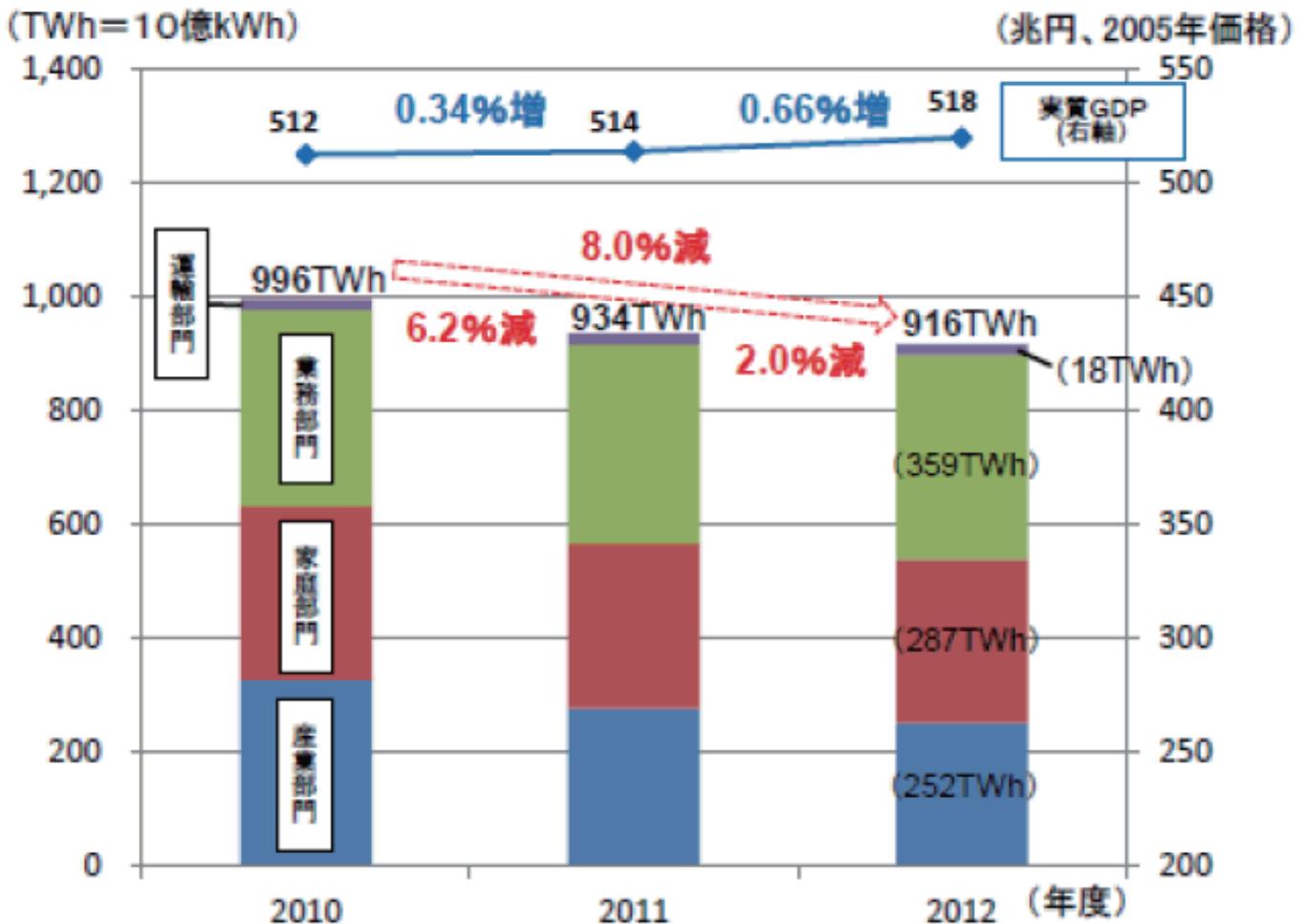
シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

10 電力消費量の推移

東日本大震災後、我が国の最終エネルギー消費は、2010年度から2012年度にかけて4.2%減少しましたが、そのうち電力消費については、我が国では経済が成長したにもかかわらず、生産量の減少や節電効果、2010年度と比べて冷夏暖冬であったこと等から8.0%の減少となりました。

電気料金上昇の影響から、一般家庭での節電行動の動機は、電力供給不足への協力というものから、電気料金上昇の家計への影響を緩和するためのものへと変化しながら、節電の定着が進み、2013年度夏季の定着節電量は2010年度比で約1,667万kW（2010年度夏季最大需要比で9.3%）となっています。

震災前後の我が国の電力消費量の推移



(注) 四捨五入の関係で%等が合わない場合がある。

(出典) 資源エネルギー庁「総合エネルギー統計(最終エネルギー消費のうちの電力)」、内閣府「国民経済計算年報」を基に作成